

R7 ほくらボ！！

～まなび・つながり・実践のまちづくり～

R7.5.31 北栄町副町長 岡本 圭司

An aerial photograph of a coastal region. On the left, a sandy beach meets the turquoise sea. A line of green trees separates the beach from the inland area. Several large white wind turbines are visible, some on the beach and others further inland. The background shows a flat landscape with fields, some buildings, and distant mountains under a clear blue sky.

2025年 北栄町は町制20周年

変化を機会とし、町民の豊かさを築く
”次の20年への基盤づくり”

変化のときを迎える北栄町

道の駅ほうじょう 4月25日リニューアルオープン

- 全国でヒットを生む事業者＋北栄町の農の恵み
- ”地方創生・観光加速拠点となる道の駅”
- GW期間中5万4千人が来駅、新たな賑わいの拠点に



R8年度 山陰道・北条湯原道路 ”北条JCT”開通

- 東西・南北の交通の結節点に
山陰県内はもとより、山陽・関西との
アクセスが向上
- 好立地を活かし、観光、流通等
の拠点化を推進
- 交通事故防止、救急医療を支え
る命の道に



R9年 青山剛昌ふるさと館リニューアルオープン

- 現施設から延床面積を3倍以上に拡大。誰もがゆったりと魅力を感じる施設に
- 青山先生が過ごした、由良宿の街並みや大山を望めるロケーションに
- 年間27万の入込を想定



3大プロジェクトがもたらす住民生活への影響

プラスの影響

① 観光・交流増による経済効果

来訪者が増加。地域内消費が活発化し、農産物や特産品の販路拡大・高付加価値化が期待される。

② 地域の利便性・安全性の向上

高速道路の整備により、医療・災害対応の迅速化（救急搬送・防災道の駅の整備）が可能になり、住民の安心感が増す。

③ 地域の魅力向上

若者・子育て世代やUターン人材にとって「住みたい・帰りたいまち」としての魅力が強化され、定住促進につながる。

マイナスの影響

① 交通量の増加

一部地域で交通渋滞・騒音・事故リスクが高まる可能性あり。通学路や住宅街などへの配慮が必要。

② 資源の集中と周辺の空洞化

観光客の流れが特定拠点（ふるさと館・道の駅）に集中することで、周辺商店街や他地域の経済活性化が置き去りになるリスク。

③ 経済構造の偏り

観光業に過度に依存すると、景気変動や災害等による来訪者減少時の打撃が大きくなる。持続可能な地域産業とのバランスが必要。

生活満足度調査に見る北栄町民の傾向

- **将来への安心・満足度が低い傾向**

特に70代以上では、仕事、家族、お金、健康、趣味や娯楽など、人生の様々な項目に関する見通しが全国の同年代と比較して低い傾向

- **良好な人間関係と高い協調性**

「人間関係」(家族、友人、職場、地域)全般に比較的高い満足度

- **商業・レジャー施設、買い物の利便性への不満**

「商業施設、レジャー施設」「飲食店」の不満足度が高い傾向

- **子ども関連環境への不満(特に遊ぶ場所、公園)**

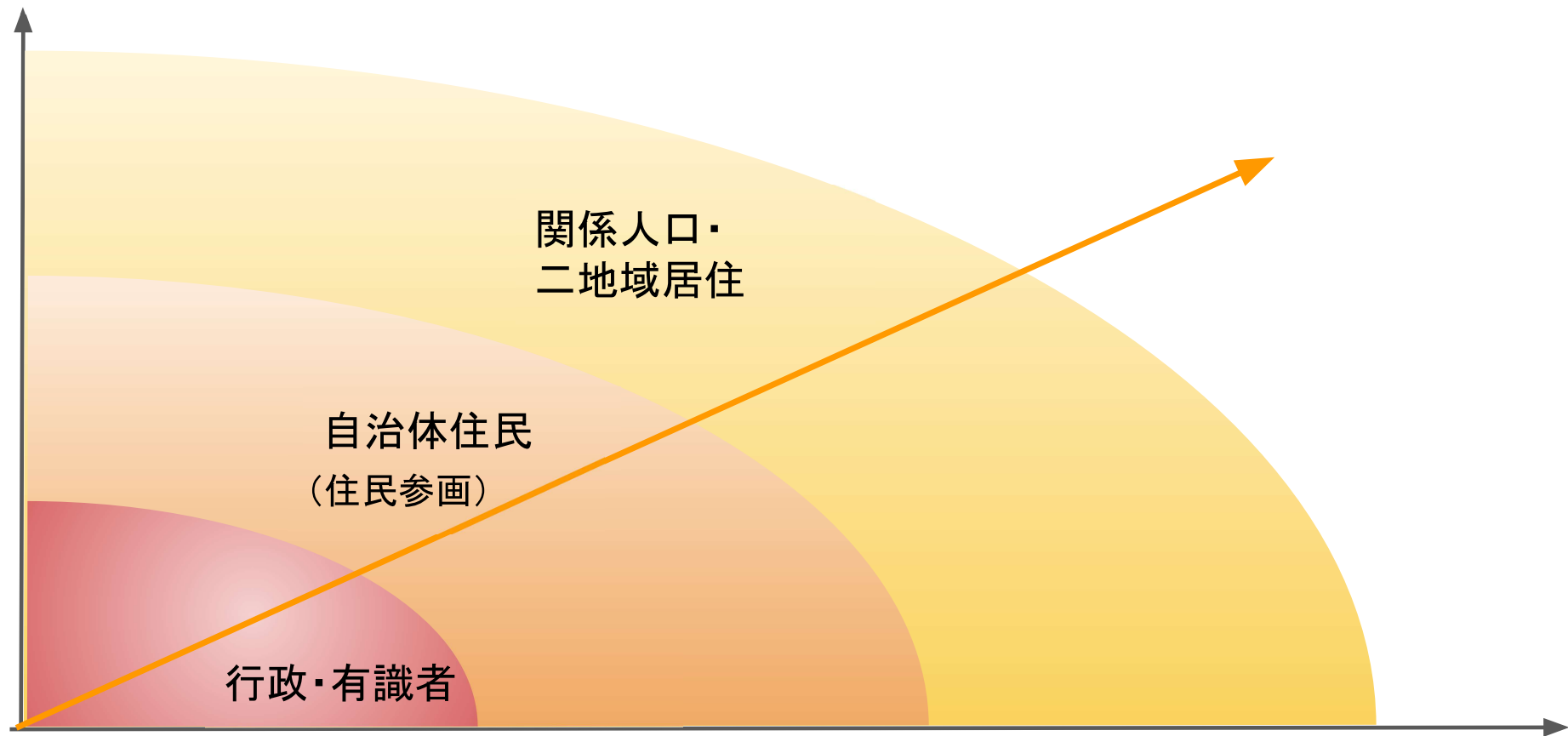
保育施設や教育機関への満足度は比較的高めですが、子ども向けの体育・文化活動や自治体の子育て支援への満足度は高くありません

- **趣味・余暇活動への満足度の低さ**

「スポーツ」「美術、芸術」「音楽」といった趣味に関連する項目への満足度が全国平均と比較して低い

住民像の変遷

- 自治体の役割の拡大(地域外とのかかわり)や課題の多様化・複雑化、人口減少により、地域を超えて拡大。
- ポイントは(時に場所より)”自分ごと” ”当事者意識”



人のつながりを町の豊かさにするまちづくりへ

二地域居住の推進一外の人も巻き込み町の課題に向き合う

- 地域資源を生かし、“担い手”になる人の巻き込み
- 関係人口そのものの豊かさ＋将来的な移住希望者の増加
- 多様な知恵・ネットワーク・関わりでまちの強みを伸ばし、持続可能性をつくる

関係人口の拡大

- 多様な関わり方の提示
- 繰り返し来訪する名探偵コナンファン等と地域との関係づくり

かかわりの深化

- 宿泊・滞在環境の整備による滞在期間の延長
- 産業・まちづくり等への参加機会の拡大
- デジタルを活用した継続的な関係づくり

持続可能なまちづくり

- 二地域居住者・住民双方の満足度の向上
- 将来的な移住定住人口の増加

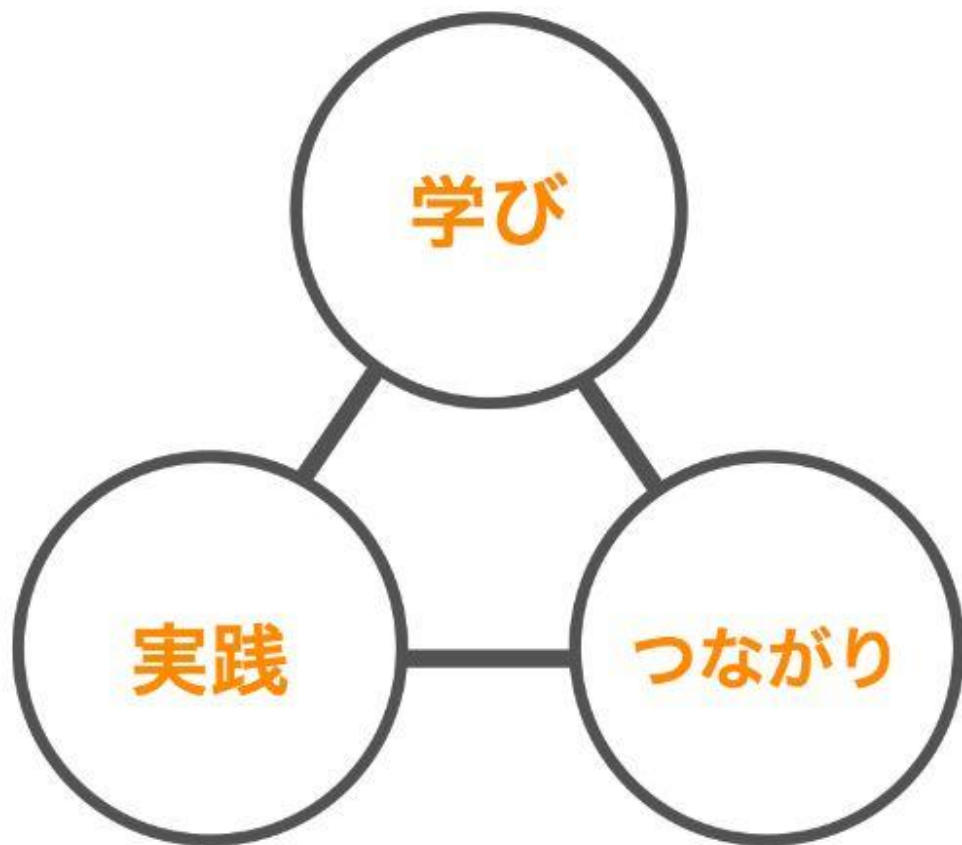
北栄町由良地区
約885,450㎡

※うち、農業振興地域の整備に関する法律（昭和44年7月1日法律第58号）に第3条に定める農用地は対象外とする。



出典：国土地理院

「学び・つながり・実践」のまちづくり



学び

人生100年時代に適応した自己実現・成長
知的欲求の充足による豊かさ

つながり

住む地域・背景を越えた多様な人々との協働
互いの多様性を尊重する環境づくり

実践

主体的な人生の実現
自分ごととしての地域課題解決

変化する公民館の役割

北栄町の変化が公民館に及ぼすもの

プラスの影響

① 交流機会の増加

公民館主催の講座やイベントにも外部参加者が加わる可能性が高まる。交流を通じて新たな学びや視野の拡大が期待される。

② アクセスの向上

公民館へのアクセスがしやすくなり、利用者や講師が参加しやすくなる。特に高齢者や子育て世代にとっての利便性が向上。

③ 活動の幅の拡大

公民館での活動が観光や地域資源とつながり、地域案内やワークショップなど、実践的で魅力的な内容に発展する可能性がある。

マイナスの影響

① 施設利用の競合

交流やイベント連携の場として利用されるようになると、既存の利用（定例サークル、会議など）が使いづらくなる懸念。。

② “商業化”・“観光寄り”への偏り

外部向けイベントに注力しすぎると、地元住民のための日常的な学習や交流の場としての公民館の役割が弱くなる可能性。

③ 町内の拠点格差の拡大

新公民館に資源や人が集中し、他の公民館が取り残され、利用者減少・施設縮小などの負のスパイラルに陥るリスク。

公民館の役割の変遷

戦後期

① 社会教育

地域が抱える様々な課題を学び合う場。

② 社交娯楽

楽しく交流する場。

③ 自治振興

住民が意見を述べ、地域を経営するための場。

④ 産業振興

住民が意見を述べ、地域を経営するための場。

⑤ 青年育成

次の世代を自分たちで育成していく場所。

公民館の役割変化

① 大規模化

ホール併設など。

② 講座中心化

地域づくりの場から講座を受講する場所へ。

③ 地域づくり機能の希薄化

地域を作っていく機能や、人間関係を耕す機能の喪失。

④ 公民館の衰退

民間教育サービスとの競合、役割の希薄化。

公民館の役割の変遷

現代社会における変化を踏まえ、公民館に期待される役割

- 人口減少・超高齢化・社会課題の複雑化に対応し、住民の自立と孤立解消を支援する拠点としての役割
- 人間関係・「関係性」を耕し、社会の基盤となる人々の繋がりと関わりを創出する役割
- 地域づくりや暮らしを「自分ごと」として捉え、主体的な関わりを促す学びの場としての役割
- 多様な主体との連携を促進し、「学びのオーガナイザー」としての社会教育士がその専門性を発揮する拠点としての役割
- 試行錯誤と共創（by all）を支え、プロセスを楽しみながらの地域づくりを促す役割

R4 ほくらぼの提案に見る「公民館の将来像」

① 人々が集い、つながり、交流する場であること

人・情報が集う「たまり場」。子育てに優しい公民館。町民同士の共体験を増やす場。仲間づくりの場。

② 学びや成長の機会が提供される場であること

デジタル教育・高校生ボランティアの活用。地域の人が講師になる場。デジタル人材の育成の場。

③ 多様な世代や人が利用しやすく、それぞれのニーズに対応する場

多文化共生や異なる世代間の交流。子ども連れや高齢者が利用しやすい。デジタルカリキュラムの充実。こどもと高齢者が教え合う。

③ 地域の課題解決や地域づくりに貢献する場であること

他施設との連携・公民館の「出張」。子育て世代に選ばれる町になる公民館。官民連携や外部人材を活用したまちづくりの拠点。地域の組織や連携の場。

③ 気軽に立ち寄り、活動できる「場」であること

デジタルに対応したたまり場。子どもたちがいつでも楽しく遊び、体を動かせる空間。気軽にくつろげ集える場所。フリースペースの充実・ユニバーサルデザイン

研究員へのお願い。

中央公民館大栄分館について

北栄町の未来につながる、
つながり・まなび・実践の場としての
公民館の運営を考えてください。